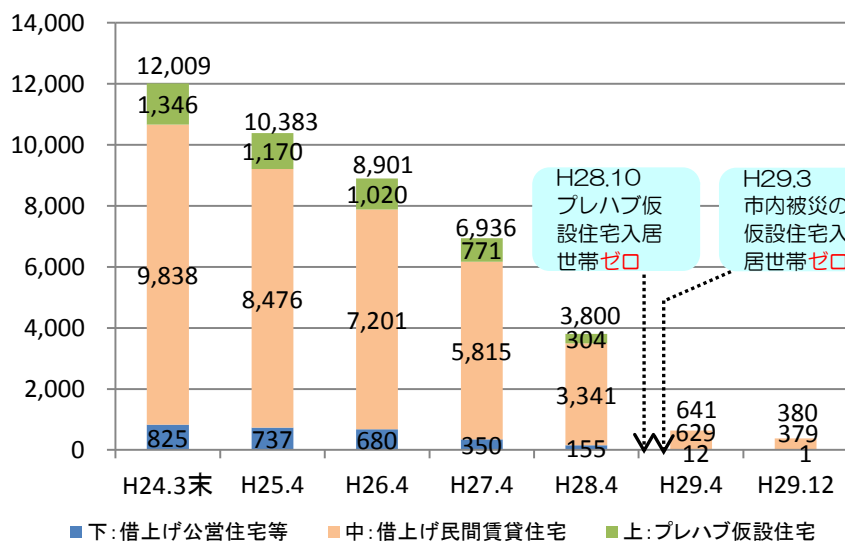




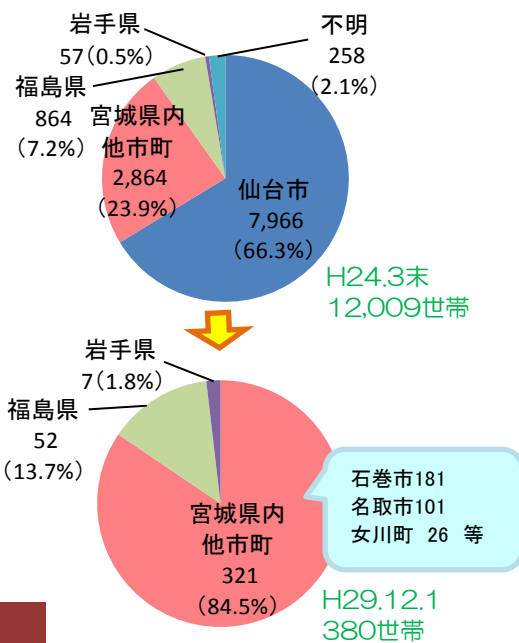
## 入居世帯の推移と震災時の居住地別入居状況

- ・市内の仮設住宅入居世帯は380世帯となり、ピーク時（平成24年3月末）の3.2%まで減少しています。
- ・市内で被災された世帯は平成29年3月末までに全て再建され、仮設住宅には市外で被災された世帯のみが入居されています。
- ・プレハブ仮設住宅は平成29年3月末までに全て解体され、市内の仮設住宅入居世帯は全て、借上げ民間賃貸住宅等の「みなし仮設住宅」に入居されています。

### 入居世帯の推移



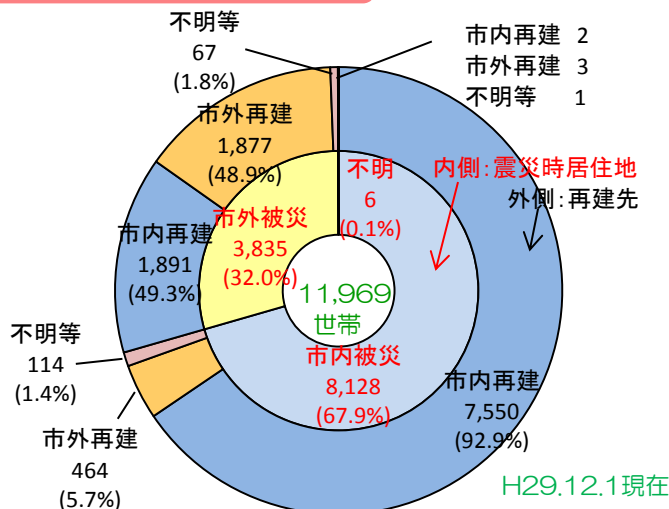
### 震災時の居住地別入居状況



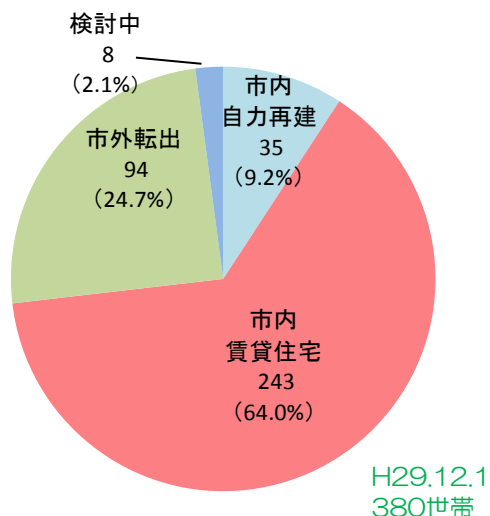
## 入居世帯の住まいの再建

- ・これまで再建された世帯のうち、約79%の世帯が仙台市内で再建されています。（市内被災世帯の約93%、市外被災世帯の約49%が仙台市内で再建）
- ・仮設住宅に入居されている世帯のうち、約73%の世帯が仙台市内での再建を希望されています。

### 震災時の居住地別再建状況

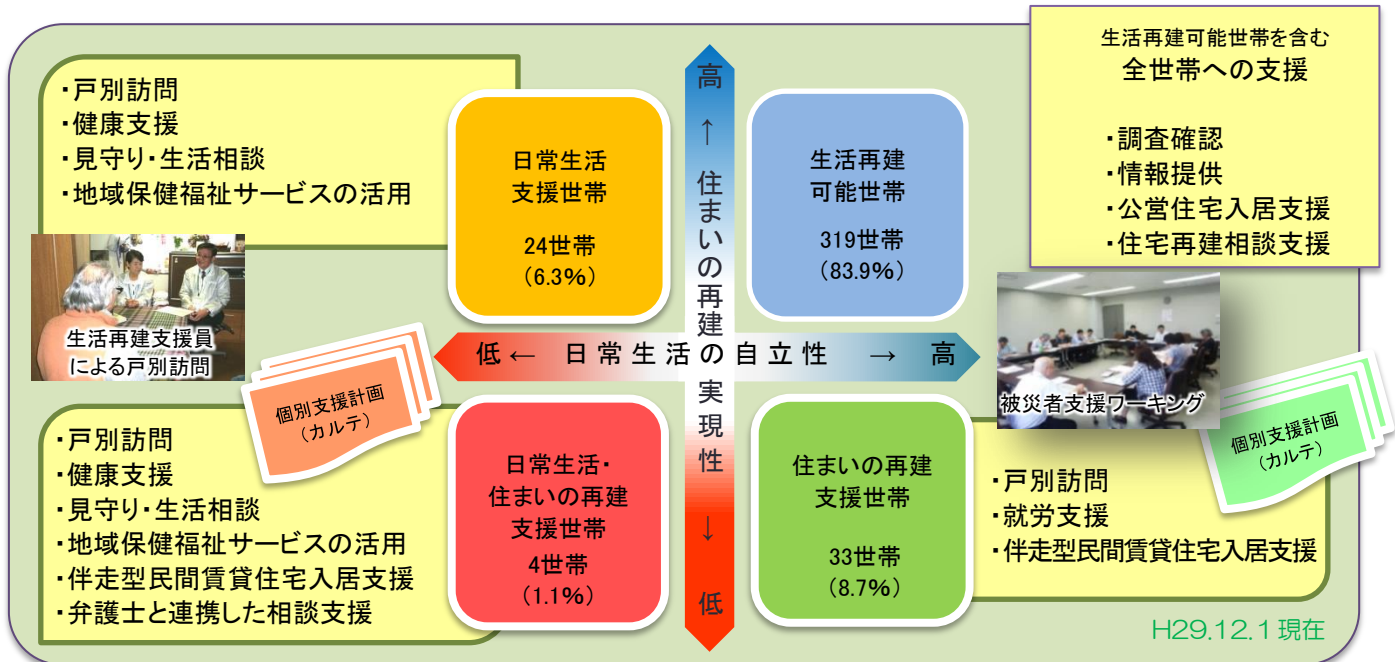


### 仮設住宅入居世帯の再建方針



# 入居世帯への支援

新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、戸別訪問等を通じて課題を抱える世帯に対する移行支援に取り組んでいます。



## 世界防災フォーラムが開催されました

東日本大震災の経験と教訓を国内外へ伝え、世界の防災・減災対策に貢献するため、11月25～28日に防災に関する3つのイベント「世界防災フォーラム/防災ダボス会議2017@仙台」、「防災推進国民大会2017」、「2017防災産業展in仙台」が、仙台国際センターなどで開催されました。開催期間中は、合計1万人以上の来場がありました。東日本大震災を経験した市民の方々も、セッションへの登壇やブース展示、体験型イベントの運営などの形で参画し、来場者とともに防災・減災について考える機会となりました。



「より良い復興」をテーマとした仙台市主催セッションでは、市民の方々が被災者生活支援や地域の記憶の伝承など、自らの取り組みを発表し、今後の復興について議論しました。



スタディツアーでは、多くの海外の防災関係者が震災遺構の荒浜小学校や津波避難タワーなど、市内沿岸部を視察しました。



防災推進国民大会では、子どもから大人まで幅広い層に防災の取り組みを紹介するため、ブース等の展示のほか、さまざまな年代が楽しめる企画も用意されました。

